

第2期栃木市文化振興計画（素案）に関するパブリックコメントの結果について

- 1 実施期間 令和4年12月1日（木）～令和5年1月6日（金）
- 2 意見の提出方法 書面で直接、郵送、ファクシミリ又は電子メール
- 3 意見の提出数 10件（2名）

※パブリックコメントの結果表を作成するにあたり、いただきましたご意見を項目ごとに整理し、表中のページ番号につきましては、第2期栃木市文化振興計画（素案）に記載のあるページ番号としています。

No.	質問・意見の概要	市の考え方
1	<p>【「文化」を一言で定義することは困難、との見解について】（2ページ）</p> <p>・文脈に沿えば、「対象とする文化の範囲」に関する記述なので、「文化の定義」を議論する場でないことは理解するが、「文化とは私たちの生き方であり、生活の様式である」と定義する見解もあるので、規定しないまでも、そうした見解があることの紹介はしてもいいように思う。</p>	<p>この項目は、「文化の範囲は広く、一言で定義することは困難」であることから、本計画において対象とする文化の範囲を定めるものであり、また、「文化の定義」については、学問や考え方により見解は様々でありますので、「定義」の解釈には踏み込まないことといたしました。</p>
2	<p>【SDGsについて】（3ページ）</p> <p>・SDGs17の目標は、国連で採択された以上、逸脱することの難しい一種の宗教の教義のようになっている。とすると、各国がその実現を目指す結果、もたらされるのはどこも同じような世界、価値の平準化ではないか。しかし、それは地域の特性に応じて歴史的に形成されてきた多様な文化とは真逆の状態だ。グローバリズムの甘言、美辞麗句に惑わされることなく、私たちの生き方、生活の様式を磨き、成熟を目指すべきだろう。</p>	<p>SDGsについては、国連加盟国全会一致で採択された国際目標であり、我が国も積極的に取り組むこととしており、本市としても政府方針を踏まえながら関係施策の推進を図っていく必要があります。</p> <p>ついては、SDGsの理念を踏まえた上で、本市の特性や歴史を生かした、文化の振興を目指してまいります。</p>
3	<p>【文化施設に関して】（29・31ページ）</p> <p>・鑑賞の場としての文化施設しか念頭にないように感じる。「文化団体等の育成・支援」で「文化団体等に対する活動の場の提供」を「取組み」としていることと、統合再編ありきの姿勢は矛盾しないか。</p>	<p>本計画において、文化施設は、文化芸術の鑑賞の場及び発表の場としての役割に加え、体験や学習機会を充実させる為の中心的役割を担う施設と位置付け、有効活用を図っていくこととしております。</p> <p>また、再編により閉館となる文化会館においては、新たに整備する地域複合施設内に多目的ホールを整備する等の代替措置を講じ、地域の文化活動に影響を及ぼさないよう努めていく考えです。</p>

No.	質問・意見の概要	市の考え方
4	<p>【推進体制について】 (38 ページ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・芸術文化に触れる機会を設けるにしても、芸術文化活動の支援を行うにしても、文化財等に触れたり学んだりするにしても、事業を行う主体をどうするという議論、記載が全くない。丁寧に現状を分析し、課題を見出し、計画を立てても、それを実行する主体がなくては、文化振興計画は文書で終わってしまう。栃木市民文化事業団(仮称)のような、専属の専門職員と予算を持つ主体の設立を検討すべきと考える。 ・行政が関わる事案は文化活動において有効に働いていないと思います。今後の文化活動の担い手は文化振興計画推進懇談会のような市の下部機関ではなく、独立した文化事業団を設立すべきだと思います。 	<p>独立した文化事業団(仮称)を設立することは、優れた文化芸術に触れる機会の提供や効果的な事業展開、市民の文化芸術活動の推進等に寄与するものと考えます。</p> <p>しかしながら、法人の運営体制や収益性、費用対効果等を慎重に検討する必要があることから、他自治体の事業団等の状況を参考に、調査研究を行ってまいりたいと考えております。</p>
5	<p>【計画全般について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的に第2期の計画を作る場合は第1期の計画の実施状況を検証して作るのが通常だと思いますが、残念ながらこの重要な前提の検証がなされていないなか何を計画立案するのでしょうか。計画を再度検討し直す必要があると思います。 ・この計画で最も欠如しているのは時間軸と言う観点です。計画だから未来の事だと言うかもしれませんが、どの様な事でも過去・現在・未来と分けて考えると見えてくるものがあります。時間軸で検証すれば栃木の文化の特徴が解って今後の方向性がはっきりします。 ・この計画の主体者はだれなのでしょう？きちんと行政の行う事、市民の行う事を明記し共に活動することが文化振興には重要な事ではないでしょうか。 	<p>現行計画の計画期間が今年度までであり、最終的な検証は次年度となりますが、毎年、文化振興計画推進懇談会や市・教育委員会等の行政評価において実施状況の検証は行っており、その際にいただいたご意見・ご指摘を踏まえ、本計画を作成しております。</p> <p>また、市民に行っていただくことは、文化芸術活動に取り組んでいただくことであると考えますので、本計画は、市民が活動を円滑に行うことができ、本市文化の継承発展が図られていくために、市が取り組むべき施策等を示す計画といたしました。</p> <p>今後においては、本計画の推進に努め、市民・団体等の文化芸術活動の更なる振興を図ってまいりたいと考えております。</p>

No.	質問・意見の概要	市の考え方
6	<p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民アンケートの結果、「時間的余裕がない」が文化芸術等を鑑賞していない理由、文化活動をしていない理由の首位だが、「生活の様式」に遡って検証する必要があるのではないだろうか。 ・かつて栃木[蔵の街]音楽祭は、文化の振興を「観光の振興と地域の活性化につなげる」試みとして注目されていたが、「市民の参加者が少ない」「市民が親しめる内容を」との批判を真に受けて改革した結果消滅した。しかし、交流人口の増大を図ることが目的であれば、市民の関心は問題ではない。栃木市に足を運んでくれる人の関心の方が問題なのだ。大衆化した演奏会ほどの町にもあるから、他の町からわざわざ栃木に人は来ない。人口は交流しない。 	<p>いただいたご意見については、今後の政策等の参考にさせていただきます。</p>